

2019(令和元)年度 第2回「Salon De 大学コンソーシアム大阪」開催報告

「企業と大学の違いに見る、大学運営の諸課題と展望」

日 時 : 2019(令和元)年 11 月 14 日(木)18:00~19:30(情報交換会 19:30~20:30)

会 場 : キャンパスポート大阪 ルーム B(大阪市北区梅田 1-2-2-400 大阪駅前第2ビル 4階 西側)

講 演 者 : 大石 利光 氏(学校法人大阪電気通信大学 理事長・学長)

申込者数 : 36 大学・団体 63 名(うち会員外 12 大学・団体 14 名)

参加者数 : 33 大学・団体 54 名(うち会員外 11 大学・団体 12 名)

企画・運営 : 大学コンソーシアム大阪研修部会推進委員会

2019 年度第 2 回目の Salon De 大学コンソーシアム大阪(愛称: サロン・ド・コンソ)が、大石 利光氏を講師に迎えて開催された。以下、その概要を紹介する。

はじめに、司会進行の小林 諒太郎氏(大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員/大阪経済大学 総務部 人事課)より、本日のサロンの趣旨説明があった。続いて、開会挨拶として、浅田 晋太郎氏(大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員長/学校法人 大阪女学院 理事)から、今回の講演テーマと講師の紹介があった。



大石氏からは、まず理事長・学長を務める大阪電気通信大学の紹介があり、企業と大学のマネジメントの違いや組織運営において重視している点について、自大学で行った改革を事例に説明があった。

同氏は 55 歳で大学教員に転じ、その中で実社会と大学組織の感覚のズレの大きさに驚いたという。またこのギャップを垣間見て、企業の視点を取り入れた組織改革に臨んだ。大学は企業に比べ競争意識が薄い。「目的を共有化し、組織力を発揮し、競争社会で勝ち残る」という意識変革を起こすことが必要として、様々な取り組みを進めたと話す。



大学は企業のようにV字回復や急成長が難しく、一定の時間を要し、打つ手がすぐ結果を生み出すものではない。早く手を打たないと取り返しがつかなくなるという危機感をもつべきとして、変化のスピードが求められる時代に対応するべく、「組織を重んじ、組織力を高め、組織力で勝つ戦略」、「責任感なき組織から責任感ある組織への転換」といった「組織力強化」が急務であると強調した。

またそのためには、現状を認識し、相互に信頼しあい、価値観を共有する「意識改革」が必要であり、その結果として、行動が変容し、全教職員が同じ目的に向かって力を合わせる組織が実現すると力強いメッセージを送った。

最後に、大石氏の人生経験から、42歳の時に意識改革が起こった瞬間の話が共有された。「きっかけさえあれば人間は一瞬にして変わることができる。今、自分にできることに全力を傾ければ、次のステップが見えてくる」という一人ひとりの意識変容の大切さについて触れられ、講演が締めくくられた。



質疑応答は、事前に参加者から寄せられた質問を中心に行われた。「目標の達成を検証・継続する方法」についての質問には、責任者を明確にした活動計画が大切であること、「教員に危機意識をもたせる方策」については、学校を離れた場で徹底した話し合いをさせ、彼ら自身に結論を出させてはどうかといったアドバイスがあった。

プログラム終了後には、参加者へ「参加証」が配付された。



その後、講師を囲んで情報交換会が開催された。終始、和やかに情報共有や意見交換を行う姿が見られ、参加者間のネットワーク構築の場としても活用された。

以上